

# 少しのことなら自分でのりこえ、安定して生活する子

田口久恵

自閉的傾向の強いH児は、受容を基本にした指導により少しずつ安定を得、いろいろな力を発揮しはじめた。このH児に自立心（自主性と自律性）を促すことによって、保護されなくても少しずつ自分の力で安定した生活ができるように指導していった事例について、生活単元学習及び遊びを中心に述べてみたい。

## 1. 生育歴及び指導の経過 (62. 6. 現在)

- S. 55. 2. 11生 7才4月 男子 第一子(妹) 出産正常
- 身体的発達 は標準的。1才5月頃から反応の乏しさに気付く。
- 4才～5才時通園施設に通園。62. 2. 児相より自閉症と診断。
- 61. 4. 本校1年に入学。一日に何度もパニックを起こして泣いた。Hの思いを素早く察知し、環境を合わせていくといった受容を基本とする中で、安定して生活し始める。62. 2. 発達を総括する中で、「保護されるのみでなく、自立的に安定した生活にどう取り組ませていくか」という発展的課題が残された。

## 2. 実態、移行上の課題、目標 (62. 6. 現在)

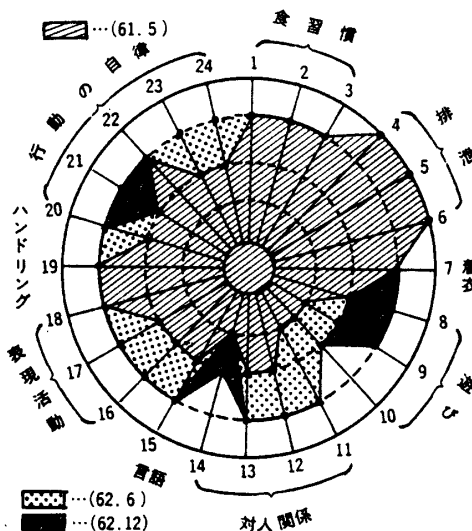
泣き声や奇声での表現、自己中心的な行動等いろいろな問題点を残しながらも、右に示す標準検査及び日常行動観察でのH児の一年間(61. 4～62. 6)の発達は次に示すように著しく、それらを手がかりに目標を設定した。

発達の様子 (図1の [点線] 部分の具体例)

- 判断を眼差しでよく仰ぐ。「ダメ」「アトデ」といった制止、禁止的な指示が少しきけだした。〔行動の自律〕
- 遊びへ興味を持ち、熱中したり、調理や造形活動等の好きな学習への集中・持続、技能の向上がみられる。〔遊び〕
- 模倣、連想で言葉がよく出たり、引っぱりによる要求が多く出はじめた。〔言語、対人関係〕
- 担任を信頼し、甘え、頼っている。〔対人関係〕

### 移行上の課題

- (1) 保護による安定から、自立心による安定に向かえる(向かうべき)時期に来ている。
- (2) 大人の抑制系からの働きかけが有効(必要)な時期に来ている。
- (3) 言葉による表現、言葉による行動のコントロールによって安定できる時期に来ている。



〔精研式CLAC-II〕(図1)

項目	評点	(1)	(1.5)	(2)	(2.5)	(3)	(3.5)	(4)
1. 人との関係	斜線... (61.5)							
2. 模倣	点線... (62.6)							
3. 感情	黒塗り... (62.11)							
4. 身体の使い方	(-)							
5. 物との関係	縦線							
6. 環境変化に対する適応	横線							
7. 視覚による反応性	(-)							
8. 聴覚による反応性								
9. 近接音による反応性								
10. 不安反応								
11. 言語性のコミュニケーション								
12. 非言語性のコミュニケーション								
13. 活動水準								
14. 知的水準								
15. 全体的印象								

〔CARSスコアリングシート〕(図2)

目標



- (1) 少しのことなら自分でのりこえ、安定して生活する態度を育てる。
- (2) コミュニケーション能力を高め、素直に自己を表現する態度を育てる。

3. 指導の方針

- (1) 叱ったり、我慢させたりではなく、得意な遊びや学習に集中・持続させたり、無理のない抵抗を乗り越えさせ、成就感、成功感、充実感を味わわせることによって、自立心を育てていく。
- (2) 場に即して、言いたい事を代弁したり、模倣させたり、言いきかせたりして言葉を打ち込んでいく。従って、具体的に即した、ゆっくり、丁寧な対話を大切にする。一方、禁止、制止等の抑制は、限定された事に、単純、明確に、時には無言の語りかけで行う。

4. 指導形態と主な指導法及び実践例

**日常生活指導**

生活のパターン化により見通しを持たせる。見通しの中には「すんだら遊ぶ」「すんだら食べる」「すんだら散歩」といった楽しみを位置づけ意欲的な取り組みを促す。見通しを逆に「自転車は～してから」「テープは着替えてから」といったけじめの手段に生かす。

**個別指導**

言葉の指導を中心に置く。具体生活と遊離しない遊び、学習を通して「欲しい」「いきりません」「はい」「いいえ」「～して下さい」等、要求に関連したサバイバルスキルを中心に指導する。

**生活単元学習**

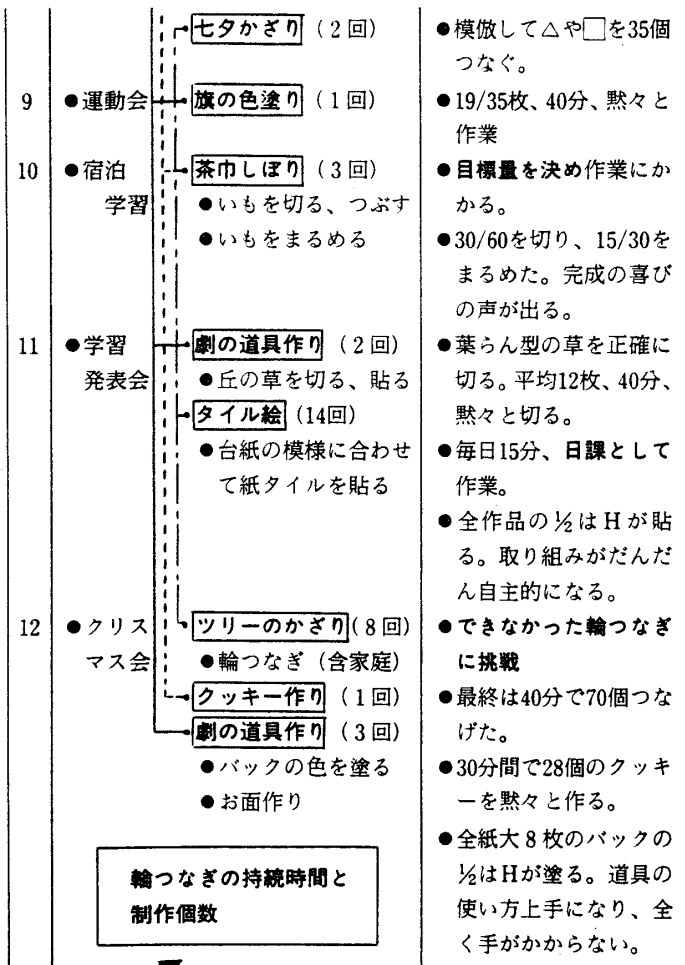
H児が得意な、熱中できる造形活動、調理の場面で彼を生かす。目標量や課題を明確にし、乗り越えた、やりとげた喜びをしっかりと持たせる。1年を見通して目標(量、技能、集中時間等)を除々に積み上げ、抵抗を乗り越えたり、ふんばる力を育てていく。

(1) 生活単元学習の年間計画と中心活動例。

月	単元名	中心とした活動	意図・様子
6	炊飯 遠足	カレー作り (5回) ●にんじん等を切る	●次々見え、20分切らせてみる。平均10本、小さく刻む。
7	七夕 発表会	劇の道具作り (6回) ●バックの色を塗る ●山の草を切る、貼る	●分担場所を決める。全紙2枚の%と山の%をHが担当。 ●作業には集中して取り組む



[バックの色をぬる]



[草を貼る]



[ペーパーサートをする]

回	持続時間	個数
1	15分	10
2	15分	20
3	30分	30
4	15分	30
5	40分	70



[輪つなぎ]



[タイル絵]


## (2) 生活単元学習での取り組みを通して

- ① どの単元でも中心活動を核に、充実した取り組みができた。不安定な時でも、中心活動に取り組みれば安定する等、自立心を育くむ上でこの活動は、直接的・間接的に有効であった。
- ② 中心活動は、単元内、単元間のくり返しと積み上げを意図したため、同じ道具作りでも、七夕→発表会→クリスマスと、見直しによる意欲や自主性の向上が見られ安定につながった。

### 遊び

好きな遊びを思い切りさせて、楽しさや充実感を味わわせる。その中で、少しずつ抵抗を乗り越えさせたり、一緒に遊びながら、場に即した要求言語や感情表現の言葉を育てる。

(1) 自転車遊びの経過と対応

月	H児のようす	対応・留意点
9	 〔自転車で遊ぶH児〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三輪車、ゴーカート乗りの発展でペダルを廻して遊んでいる内に、自転車乗りへの興味が出てくる。</li> <li>●障害物のない前庭で、ころつき自転車をしっかり支えて安心させ、スピードの楽しさを体得させる。</li> <li>●自転車があるか確めに急に飛び出すほど熱中しはじめる(9/24)</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●凸凹道の方にまで範囲が広がり、自転車が自由にできず怒る。</li> <li>●「すんだら自転車」の約束で、あっという間に着替え、外へ飛び出す。</li> <li>●困った時、声と同時に手まねきの動作をし、その後引っぱりに来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人で自由に乗れだす。(10/1)</li> <li>●支えたり、押ししたり、引っぱりたり、できる限り援助をする。</li> <li>●「～してから」の楽しみを中心に。約束は必ず守るよう配慮。</li> <li>●「オシテ」等、言葉の指導開始。</li> <li>●「ことばで」と言語表現を要求。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ことばで」に、いろいろ言葉をさがし、次々発しはじめる。</li> <li>●日によってコースがある。同じコースを何回もくり返す。障害物に対し、自分なりにがんばって乗り越える場面が見られ出す。</li> <li>●先生と二人乗りを楽しんだり、友達との競争を意識したりし始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正解まで首をふって待つ。正解をしっかり賞め、即援助をする。</li> <li>●要求したらすぐ援助できる体制をとりながらも、物かげでじっと様子を見て待つ。自分で乗り越えた時、すぐ行って賞める。</li> <li>●自転車を止め、「ドケテクダサイ」の言葉を指導。(右の表参照)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●掃除がすむとすぐ自転車乗りへといきいきし、校庭を走り廻る。</li> <li>●「車庫入れ(おわり)」の指示に「モットクダサイ」と要求</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時には二台で並行して走ったりして、人との楽しさに気付かせる。</li> <li>●「あと1回だけよ」と要求には応じる。</li> </ul>



〔自転車を止め「ドケテ」の練習〕

回	様子	指導	結果
1	キーキー 怒る	どけて	ドケテ
2	キー、 ブレーキ	どけて	ドケテ
3、4	にやにや 笑う	ど	ドケテ
5	オシテ	ど	ドケテ
6	ベルを 鳴らす	ど	ドケテ
7、8	1～10まで 数える	ど	ドケテ
9、10	ドケテ		
11	ドケテ		
12	トウラシテ		
13	チョーダイ	ど	ドーズ ドケテ
14	キタキタ	ど	ドケテ
15	オロシテ	首をふる	ドケテ
16	ドーズ、 ドケテ		
翌日	ドケテ		
1月後	ドケテ クダサイ		

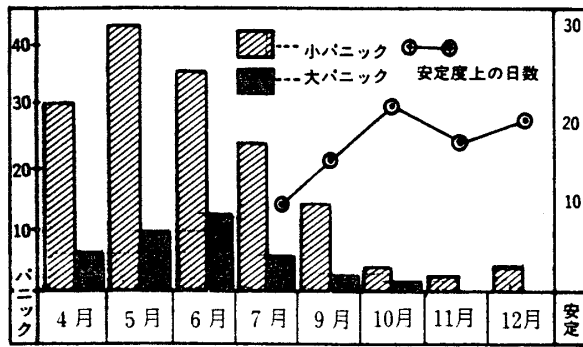
(2) 自転車遊びを通して

- ① 自転車への熱中は、楽しさ、充実感による安定はもとより、楽しみ、はげみとして生活の支えになり、自主的、自律的行動をたくさん引き出した。遊びを核にした事は有効であった。
- ② 楽しい活動の中での危機場面は、なんとかそれを乗り越えようとする力を育てると同時に、要求を表現する手段や言葉を習得させるのに有効な場であった。

5. めざす子どもへどう変容していったか

指導を継続する一方、次頁に示す観察記録用紙を作成して継続観察し、変容をとらえてみた。

(1) パニック、安定度の変容



〔図3〕

M・Hの観察記録用紙 (月日)

・耐性 ・自律 ・性律	安定度		
	_____		
・パニック	原因	対処	結果
	_____	_____	_____
・対人関係	時・場所	相手	状況
	_____	_____	_____
・自主的 ・行動	_____		
	_____		
ことば	_____	ことば	ことばの出た状況
	自主的	_____	_____
	模放	_____	_____

(2) 耐性、自律、自主性、ことばの具体例

- 体育の前に自転車に乗ろうとした。「体育がすんでから」の指示に我慢できた (11/2)。「～してから」「あと～回」「おしまい」等、行動を制する指示が聞けた記録が10、11、12月に多くある。
- 草の形を12枚切って貼りつけ終了。遊びたい気持ちを「サヨナラ」の歌、「1、2、3…」と数える事で表現し、みんながすむまで我慢する (11/12)。
- 掃除がすむとあいさつもそこそこに外にとび出し、自転車に乗る。コースによって、三輪車、自転車と使い分けて遊ぶ (12/8)。
- ゴーカー트에思い切りぶつかる。泣くかと思ったら、「ビックリシタ」と、一人ごとを言っておしまい。あと続けて遊ぶ (11/18)。
- あめを先に食べ、友達に「チョーダイ、チョーダイ」と言う。拒否され、ついに押されてころんだが泣かないであきらめた (11/17)。
- りすのお面をぬる。終わろうとするが、白く残った部分を次々と指し、塗りつぶさせた。その間30分。立ちかけるのを4回制止したが、がまんできた (12/11)。
- 頭を机の角に軽く打つ。頭をなぞって悲しそうに泣きながら「ナイトライケン」と言う。そのあと先生に「フーフー」と慰めを要求し、おさめる (11/26)。



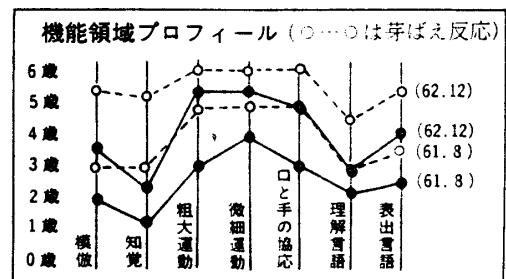
【どろんこ道ものり切れる】

(3) 考察

- ① 上記の変容の様子から、生活単元学習での積極的取り組み、自転車遊びへの熱中した取り組み、共感関係を基盤とした担任からの抑制等により、Hは少しずつ、めざす子どもへと近づけたと考える。この事は、P14に示したCLAC-II等の標準検査の変容としても表われている。
- ② 具体例にも示してあるが、言語によって行動を抑制したと思われる場面が出て来ている。言語が危機場面回避の手段としてだけでなく、自分で乗り越える力を育ててきていると考える。

6. 今後の課題

自立心による安定をめざして取り組み、わずかではあるが成果もみられた。しかし、まだまだ一触即発的な場面も多く、三年目はもう一度二年目をくり返すぐらいの慎重さが必要と考える。しかしその中に、右図のPEP診断検査でも示唆されている学習を進める課題



PEP診断検査〔図4〕

と、遊びで芽生えた友達への関心を更に育てていく課題を加えていく必要があると考える。